

令和7年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立貴志川高等学校 校長名：野川 景子

目指す学校像・育てたい生徒像		学校評価の公表方法	現状・進捗度
「～つながりを大切に～ 人間として生きる力を身につけて、地域と社会に役立つ人材を育てる」		本校ホームページに掲載する。	
・校訓「以和為貴」のもと、自他を大切にし、他者を思いやるやさしい心を持った生徒			
・自己肯定感を持ち、自らの手で未来を切り拓く力を持った生徒			
・状況を的確に判断し、主体的に行動する力を持った生徒			
・多様な他者と協働し、課題解決に取り組む力を持った生徒			

自己評価（分析、計画、取組、評価）							学校関係者評価（2月9日実施）	
番号	計画・取組				評価（2月6日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策	
1	主体的・対話的に学ぶ態度の育成と基礎学力の向上 ○分かりやすく学びやすい授業実践 ○主体的・協働的な学びの構築 ○キャリア教育の推進	C	ユニバーサルデザイン・特別支援教育の視点による授業づくり	全教員が公開授業を実施できたか（実施状況・学校評価・授業評価）	A	現職教育・公開授業を実施し、全教員で授業改善に取り組み、成果を上げた。	I C T、A I 等の活用を通して個別最適な学びとペア・グループ等の協働的な学びを推進し、生徒の主体的・対話的な学びにつながる授業づくりに取り組む。「総合的な探究の時間」については1年生においてより学習効果の高い年間指導計画を立て、改善・充実を図る。	
			「課題探究」「総合的な探究の時間」における主体的・協働的な学びの実現	生徒の望ましい変容等、学習意欲の向上（学校評価・授業評価）	B	「課探」では生徒の主体性が高まった。「総探」については改善途中である。		
			進路 LHR・各種講座・ガイダンスの充実、地域を支える人材の育成	主体的な進路選択・進路実現ができたか（進路達成率・学校評価）	B	丁寧できめ細やかな進路指導によりほぼ全員が進路希望を達成できている。		
2	個々の教育的ニーズに応じた生徒支援・生徒指導の充実 ○生徒や保護者の教育的ニーズに応じた適切な支援の実現 ○個々の生徒の適切なアセスメント ○通級指導教室・学び直しの充実	B	個々の生徒の適切なアセスメントと情報共有・共通理解	生徒の望ましい変容等、適切なアセスメントができたか（学校評価・つなぎ愛シート作成）	A	教育相談室長を中心にSC・SSW及び関係機関とよく連携し、生徒及び家庭の支援に組織的・継続的に取り組んだ。	学年担任制を導入及び特別支援教育の専門性向上により、きめ細やかな指導・支援を行う。校内の支援体制を強化し、課題の早期発見・早期対応に努め、不登校・転退学者の減少に努める。通級指導や基礎学力に係る課題を解決できるよう、先進校視察や現職教育を実施し、カリキュラムマネジメントに取り組み特色と魅力ある学校づくりを推進する。	
			「学び直し」及び「GTZチャレンジ」等による基礎学力の定着	基礎学力が身についたか（模試結果・学校評価・授業評価）	B	学び直しの視点を授業に取り入れ、基礎学力の定着を図るが、十分ではない。		
			通級指導教室等、特別支援に係る支援・指導の充実	退学・転学・いじめ・不登校・問題行動等が減少したか（学校評価）	B	いじめ・問題行動は減少したが、不登校・転学者数は微増している。		
3	地域との連携・協働及び特色と魅力ある学校づくり ○地域との連携・協働の場の創出 ○部活動・生徒会活動・ボランティア活動の推進 ○特色・魅力ある取組の発信	C	学習及び学校行事等における地域住民・小学校・中学校・事業所等との連携・協働の推進	効果的に連携・協働の取組を実施できたか（学校評価・授業評価）	A	探究活動や学校行事等を通して地域連携・協働体制が構築することができた。	「課題探究Ⅰ・Ⅱ」の充実に努め、地域連携・協働活動により、生徒の主体性・協働性を高め、地域課題の解決に努めようとする生徒の育成を図る。地域と連携し、部活動の在り方について検討を進める。中学生体験入学の実施時期を変更し、より多くの中学生が参加しやすい運営を行う。	
			部活動・生徒会活動・ボランティア活動の推進	生徒がいきいきと活動できたか（加入率の向上・学校評価）	B	部活動加入率は低いが、ボランティア等に主体的に取り組む生徒が増えた。		
			地域への情報発信の推進 体験入学の効果的な実施	タイムリーに学校情報を発信でき体験入学の効果的な実施	A	SNS(Instagram・note)及びマンスリーライム等を活用し、効果的に広報した。		
4	教職員の健康保持と働き方改革 ○校務の効率化 ○生徒と向き合う時間の確保 ○教職員のワークライフバランスの充実	C	ICT活用等による校務の効率化・業務分担の工夫等	教職員の時間外勤務時間数の削減（学校評価・時間外勤務の削減）	A	時間外勤務時間数は減少しており、校務の効率化及び業務分担が進んでいる。	学年担任制の導入により、個々の教職員のキャリア支援・年休取得の向上に努める。夏季休業期間の見直し・ボランティア引率体制の構築を図り、自己研鑽の推進・働きやすさの向上を図る。風通しのよい環境づくりに努め、教職員の健康リスク低減を図る。	
			面談週間の実施等、生徒との面談時間や回数の確保	生徒と向き合う時間が確保できたか（学校評価・面談の回数）	B	特別支援教育と教育相談の視点により、丁寧に生徒と向き合える時間が増えた。		
			協力・協働による職場づくりの推進	教職員の健康リスクが低減できたか（学校評価・年休の取得率）	A	課題には組織的に対応し、教職員の働きやすさ・働きがいが向上している。		